



ミを拾うなどして、お遍路さんが歩けるように清掃しました。清掃活動終了後は五色台山頂でバーベキューによる懇親会を開き友の会会員と地元自治会の方との交流を深めました。五色台というと休暇村や瀬戸大橋側の眺めが良いことで知られていますが、ここオレンジパークの上からは高松方向の眺めがよく、女木、男木をはじめとする備讃瀬戸の島々を見渡す風景は最高でした。



## (2) 新年交歓会(1月25日)

恒例となりつつある「海上保安友の会香川支部新年交歓会」が1月25日夜、高松市内のオークラホテルで開催されました。友の会香川支部の梅原会長と正野崎高松海上保安部長の挨拶の後、会員の香西さんの乾杯の音頭で始まりました。この日は会員23名と保安部職員9名が参加し、今年度の行事での思い出などを語り合いました。後半のビンゴゲームでは樺澤警備救難課長の司会進行のもと、初めて参加した巡視船あそゆきの山口船長と國本機関長がビンゴマシンを操り、参加者から多くの無理難題が叫ばれる中、次々と数字を出していきました。この日ただひとりの小学生の参加となった海上保安官志望の平田航大君は壇上で直接「指示」を出しましたが、当部の誇る名船長・機関長コンビをもってしてもなかなか思



航大君の難題に必死に応える山口船長

うように操縦できず苦心していました。その後予定時間はあっという間に過ぎ、最後には遍路道清掃を企画してくださった会員の波多さんが乾杯の音頭をとり、楽しい夕べを締めくくりました。



## 2 新人紹介! 海上保安官になって

今回は昨年9月、海上保安学校門司分校を卒業し巡視船くまのに配属になった武内官に寄稿していただきました。

.....

みなさんはじめまして、高松海上保安部巡視船くまの通信士補の武内秀和と申します。



今年の4月で40歳になる新人海上保安官です。

私の職場、巡視船くまのを簡単に紹介させていただきます。本船は全長45.7メートル、総トン数470トンの潜水・防災指定のPM型巡視船です。潜水土4名を含む25名で海上保安業務に当たっています。

私は昨年4月に通信・技術科の中途採用職員として入庁しました。入庁前は事務機器販売会社のサービス部門で勤務しておりま

しが、20年前にあこがれていた海上保安官になりたいという思いが捨てきれず、40歳を目の前にして一大決心をし、採用試験を受け採用されました。採用後は海上保安学校門司分校で6ヶ月の初任者研修を受けた後、本船の通信科に配置となりました。

今まで陸上で働いたことしかない私は船での勤務は初めての経験になります。船に慣れるか大変不安に思っていました。いざ働いてみますと、情報機器や通信機器の運用管理等の通信科の業務、海難の対応、事件の捜査や取締



無線機の周波数を測定中

まりなどの海上保安業務、そして数々の書類作成など、とても忙しくて不安に思う暇もありませんでした。

また、私にとって船で使う言葉は分からない言葉も多く、先日も作業時に先輩から「ロープでしばって殺しておいてください」と言われてびっくりしてしまいました。「海上保安官が殺してはいけないだろう」と思いましたが、良く意味を確認すると「ロープのしぼり目を、緩まないように再度ひねりを入れて止めること」でした。

現場に出て3ヶ月が過ぎ毎日が新しい事ばかりの日々であります。厳しくも優しい先輩方の指導もあり、毎日やりがいと充実感を感じています。海上保安官としては新人ですが、今までの社会経験で学んだ知識と経験を活かし、いろんな角度から物事が見られる海上保安官になりたいと思っています。また、今年、三歳になる息子が将来「お父さんの様に海上保安官になりたい」と言ってくれる様な自慢の父親に仕事を通じて変わってゆきたいと思っています。

### 3. 航路標識点検業務の紹介（波節岩灯標点検）



紹介したいとおもいます。

今回紹介するのは「波節岩灯標」の点検作業です。波節岩というのは丸亀港の北北西約8キロメートル、



巡視船くまののアンテナを調整中

丸亀市広島と備讃瀬戸北航路をはさんで対峙する場所にある岩です。灯標というのは「船舶に障害物の存在を知らせるため又は航路の所在を示すために岩礁、浅瀬等に設置した構造物で、灯光を発するものをいう」と定義されているとおり、障害物である岩と備讃瀬戸北航路の存在を示しています。波節岩灯標の設置は古く、初点灯は明治28年1月25日と記録されております。現在は太陽電池による点灯ですが当初は油が使用されており、当時の石蔵造りの油脂庫(油を保管する倉庫)が現在でも広島に残っています。波節岩灯標とこの石蔵はともに香川県の近代化遺産に指定されています。



置は古く、初点灯は明治28年1月25日と記録されております。現在は太陽電池による点灯ですが当初は油が使用されており、当時の石蔵造りの油脂庫(油を保管する倉庫)が現在でも広島に残っています。波節岩灯標とこの石蔵はともに香川県の近代化遺産に指定されています。

また波節岩にはもうひとつの役目、「波節岩無線方位信号所」としての設備もあります。これはレーダービーコンと呼ばれ、船舶のレーダーに位置を知らせるものです。レーダーはご存知のとおり、レーダー波が陸地や他の船舶といった障害物に反射して戻ってくる時間を計測することによって距離を測り、画面上に輝点を表示して示すものですが、レーダービーコンはレーダー波を受けるとそれを反射する代わりに同じ周波数の電波を独自に発射し、レーダー上の画面上に特徴的な輝線

を表示します。波節岩の場合は「- - -」といった表示が岩の位置を示す点の後ろに表示されます。このような設備は、備讃瀬戸海域では他に地蔵崎および瀬戸大橋の橋脚などに設置されています。

定期点検は通常保安部の交通課職員が2 - 3名で現地に船または車で移動して実施します。航路標識の数は大変多いので、一日で巡回できる近隣の標識ごとにいくつかのブロックに分けて、決められた周期で実施しています。波節岩までは灯台見回り船「ひめひかり」で高松港から約50分かかります。「岩」とはいえ小さな船着場があり、そこから上陸します。はしご段をのぼって点検開始です。最初に電源系統。まず太陽電池の出力電圧を測ります。次に蓄電池の点検、電解液の比重の測定、電圧の測定をします。また外観のチェックも欠かせません。



レーダー上の波節岩灯標の映像とその後ろに現れる特徴的な輝線



白い筒の中がレーダービーコンの心臓部

他の場所では蓄電池が破裂したこともあります。次に灯火の点滅をコントロールするLED管制器の動作を確認します。灯火の点滅のタイミングは「灯質」とよばれ船舶から見ると標識を区別するための重要な情報となりますので決められたとりの間隔で点滅するか確認します。さらに電球の交換、非常灯(消灯したばあい自動的に切り替るもの)の動作確認を行います。最後に灯火の異常を無線で知らせる消灯警報装置の点検です。無線信号を送出したとき、待機しているときの電圧が規定どおりか測定します。そして、正しい時刻が設定されているかどうかの確



狭い施設内で蓄電池の点検

認をします。これは異常の有無を送信する時間帯が標識ごとに決まっており、時刻がずれているとほかの標識と送信時間が重なってしまい正しく通信できなくなってしまうからです。さて、機器のチェックが済むと建物の周りの異常の有無をチェックします。なにしろ海上で雨風に吹きさらしにされていますので思わぬダメージを受けているかもしれませんので破損箇所がないかチェックして必要あれば補修します。

点検の内容はだいたいこのようなものですがお分かりいただけただでしょうか。高松海上保安部が管理する航路標識は155基もあり、定期的な保守点検を行うとともに異常が発生した場合にはすぐに復旧に向けた作業を開始します。

ところで、この定期点検作業について

は業務の効率化を図る観点から、高松海上保安部管内においては4月以降、委託業者が行うこととなります。海上保安部では今後はこれらの勢力を標識の異常発生時の早期復旧や航行安全指導といった分野に力点を移し、備讃瀬戸海域の安全を見守ってゆきます。



#### 4 . さようなら「ひめひかり」

上記「航路標識の巡回保守について」でも触れましたように、保守点検作業の業務の効率化にあわせて高松海上保安部に配属されている灯台見回り船「ひめひかり」はその役目を終え、高松から姿を消します。

「ひめひかり」は平成11年3月に就役し当時の姫路航路標識事務所に配属されました。その後平成16年、高松海上保安部の航行援助センター発足と同時に当部に配属され以後4年間備讃瀬戸海域の航路標識の維持管理のために活躍してきました。航路標識は海上にあるブイはもちろん、陸上にある灯台等も陸側からは近づきにくい場所に存在することが多く船でないと行けない場所が多くあります。今後、定期的な巡回保守などは民間業者が行い、緊急時の対応は巡視艇等を用いて現場に向かうこととなります。ひめひかりは今後巡視船に改修され他の部署で活躍する予定です。



## 5 . 船舶模型贈呈

船舶の模型というと、サンタマリア号などの大航海時代の帆船模型を思い浮かべる方も多いと思いますが、巡視船に魅せられて、海上保安庁の船舶の模型を連作されている方もいらっしゃいます。岡山県倉敷にお住まいの中村富市さんは以前から海上保安庁の船舶の模型を多数作られています。中村さんは完成後、作品を当庁に寄贈していただいておりますが、昨年11月、新たに完成した3隻の船舶模型



中村さん(右から2番目)と当日寄贈していただいた模型

を寄贈するため、高松海上保安部を訪れました。



ひめひかりの船首方向から、ブリッジの中にも注目

た。今回完成したのは高松海上保安部所属の灯台見回り船「ひめひかり」、坂出海上保安署所属の巡視艇「ことかぜ」、油防除艇「みずなぎ」です。中村さんは管区本部などから資料を入手して製作されており、船体の形状はもとより、甲板上のさまざまな設備や、船橋の内部まで細かく表現されています。保安部には今回寄贈された「ひめひかり」のほか、以前寄贈された巡視船「くまの」、巡視艇「あそゆき」の3隻の模型がおいてありますので、保安部に立ち寄られる際にはぜひ一見してみてください。また「琴平海洋会館」には同氏が製作した設標船「ぎんが」の模型が展示されていますので、こちらも機会があればご覧になってください。



ひめひかり船尾方向



以前寄贈していただいたくまのとあそゆき

## 6 . 高松海上保安部からのお知らせ・海上保安制度創設60周年記念について

海上保安庁は昭和23年に創設され、平成20年を迎えた本年が創設60周年の節目にあたる年となります。そこで今年はこれを記念したさまざまな式典、行事等が計画されております。またこれにあわせ右のようなロゴマークを製作し、ポスターや名刺等に記載することにより、国民の皆様へ広くお知らせし、海上保安に関する関心を持っていただき、今後の業務への理解へとつなげて行きたいと考えております。具体的な式典、行事等の内容、日程は決まっておりませんが、高松海上保安部といたしましても節目の年を迎えてこれまで以上に備讃瀬戸海域の安全を確保するために努力していきたいと決意を新たにしていますので、友の会の会員の皆様におかれましても一層のご理解とご協力をお願いいたします。



## 7. 事務局からのお知らせ

### (1) 海上保安友の会会員加入・継続手続きのご案内

早いもので、平成二十年度の更新時期が近づいてまいりました。香川支部においても、会員の更新手続きを行っておりますので引き続き、継続加入をして頂きますよう宜しくお願いいたします。

会費納入については、事務手続き上**3月17日**までにお願いいたします。同封の振込用紙にてふりこまれるか、直接友の会香川支部事務局(高松海上保安部管理課)、までご持参ください。

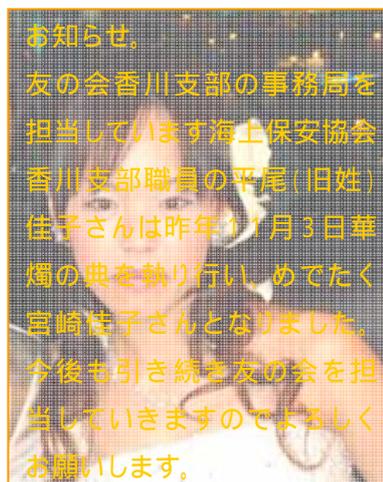
### (2) 会員の状況

平成20年2月1日現在の会員の状況は次のようになっております。

**正会員様 95名 家族会員様 67名**

お知り合いの方で入りたいという方がいらっしゃいましたらお誘いしてください。  
また、イベントのアイデアや要望がございましたら事務局までご連絡ください。  
おまちしております

\*\*\* 海上保安友の会香川支部 \*\*\*  
事務局 高松海上保安部内 電話  
087-821-7013 担当 宮崎



愛します! 守ります! 日本の海

ゆうなぎ 第17号  
発行 海上保安友の会香川支部  
平成20年2月15日

